

知恵の樹

No. 161 2011.9.21

町田の図書館活動を
すすめる会

事務局：町田市森野3-1-12 増山方
〒194-0022 FAX 042-722-1243

第97回 全国図書館大会 2011/多摩大会〔主催：日本図書館協会〕

広げよう、図書館のある暮らし

—つなげよう知の拠点 / 続けよう Help-Toshokan—

- 10/13(木)13:00～16:30 開会式・全体会(調布市グリーンホール)
- 10/14(金) 分科会 (各分科会により会場・時間が異なります)

分科会一覧 (実施会場は別)

- 第1分科会 市民の図書館
- 第2分科会 図書館評価
- 第3分科会 電子書籍と図書館
- 第4分科会 短大・高专図書館
- 第5分科会 学校図書館
- 第6分科会 専門図書館
- 第7分科会 図書館学教育
- 第8分科会 図書館職員の雇用問題
- 第9分科会 図書館の自由
- 第10分科会 図書館利用教育
- 第11分科会 資料保存
- 第12分科会 障害者サービス
- 第13分科会 児童・青少年サービス
- 第14分科会 多文化サービス
- 第15分科会 健康情報
- 第16分科会 認定司書
- 第17分科会 ICTと図書館
- 第18分科会 住民自治と図書館

第18分科会

「住民自治と図書館」

へのお誘い!

図書館を支える市民の力

— 図書館協議会・友の会・市民運動 —

10/14(金) / 多摩市 永山公民館 ホール (198名)

受付 9:30～

● 10:00～基調講演

「図書館を支える市民の力

—参加と協働による図書館づくり—

講師：中川幾郎氏(帝塚山大学大学院法政策研究科教授)

● 11:30～報告①,②,③ (各30分)

① 「多摩地域における図書館協議会」

報告者：松尾昇治氏 (実践女子短期大学教授)

② 「静岡図書館友の会」がめざすもの

～協議会・図書館を支えるために～

報告者：草谷桂子氏 (静岡図書館友の会)

③ 「図書館友の会全国連絡会」の活動について

報告者：福富洋一郎 (図書館友の会全国連絡会)

● 14:10～16:00 フロアーとの意見交流

京王永山
小田急永山 (歩3分)

多摩市 永山公民館
(パルプホール)
【第18分科会】

参加費：1日：3,000円 / 問い合わせ：大会事務局 (03(3523)0814 /

FAX 03(3523)0844 / MAIL taikai@jla.or.jp

(社)日本図書館協会大会専用ホームページ

<https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/jla2011/>

第14期町田市図書館協議会が始まりました！

第1回定例会報告

<9/1(木)9:30~11:30 於:中央図書館ホール>

1 第14期委員委嘱

委員長 松尾 昇治 (3号 学識経験のある者:2007.8.1~再任3期) 実践女子短期大学教授
副委員長 市川 美奈 (2号 社会教育の関係者:2005.8.1~再任4期) NPO まちだ語り手の会
委員 富田 直人 (1号 学校教育の関係者:2011.8.1~新任) 町田第二中学校長
石井 清文 (1号 学校教育の関係者:2009.8.1~再任2期) 金井小学校長
水越規容子 (2号 社会教育の関係者:2001.8.1~再任6期) 町田の学校図書館を考える会
久保 礼子 (2号 社会教育の関係者:2005.8.1~再任4期) 野津田・雑木林の会
山口 洋 (2号 社会教育の関係者:2009.8.1~再任2期) 町田の図書館活動をすすめる会
玉目 哲廉 (2号 社会教育の関係者:2011.8.1~新任) 町田の図書館活動をすすめる会
竹内 美季 (2号 社会教育の関係者:2011.8.1~新任) 町田音訳グループ朗奉
沢里 冬子 (1号 学識経験のある者:2005.8.1~再任4期) 和光大学

I. 館長報告

1 「2010年度教育委員会の施策等の点検及び評価(2009年度分)報告書」の図書館関連部分の説明/同報告書の図書館部分(「重点施策:図書館活用の促進を図る」同報告書 p27~28)についての説明があった。内容は町田市HPの教育委員会の箇所よりPDFファイルで全文閲覧化している。

① 市民センター(忠生、南町田)を利用した図書館資料の受渡サービスの利用は多く、他の市民センターからも実施の希望が出ている(特に成瀬、玉川学園)

② 第二次町田市子ども読書活動推進計画に関連して、ブックリストやBMの活用(BMが小学校を訪問して授業協力をした)、町田市小中学校新任教諭研修会に公共図書館を組み入れた等の活動が成果としてあげられる

2 蔵書点検の結果報告(不明資料について)

2011年6月に中央館と文学館の蔵書点検が行われた。中央館は蔵書数 622,475 点(不明:534点)、文学館 30,885 点(不明3点)全館合計 1,139,569 点(不明:537点)。なお、各地域館の蔵点は2010年6月に行い、今年も行われなかった。

3 町田市図書館嘱託委員設置要綱の一部改正について

総務省からの通知に基づき、労働基準法に照らして改正が行われた。改正内容は、病気休暇、子どもの看護休暇、産前産後の休養、介護休暇の規定改定と短期介護休暇、勤務1時間当たりの報酬額、時間外勤務報酬支給、報酬の減額等に関する

規定を新たに加え、2011年4月1日から適用。

4 町田市基本計画「町田未来づくりプラン」に基づく「新5ヶ年計画」についての説明

町田市の今後10年間の市政の基本となる「町田未来づくりプラン」(2012~2021年度分)が策定されたことを受けて、「新5ヶ年計画」(旧中期経営計画:2012~2016年度分)が今後策定される。その進捗については、市HPにて公開されるが、図書館に関連する部門は協議会においても館長から報告される予定。

II 図書館評価について

2010年度図書館評価の自己評価分が終了したことを受けて(8月にHPに公開、9月に印刷版公開予定)、その外部評価の依頼が昨年に引き続き図書館協議会にあり、協議会としてこれを了承した。図書館側評価担当者から2010年度図書館評価の説明があり、外部評価は2011年11月までに終了、12月に公開の予定です。おすすめしたいとのこと。なお、今後の外部評価のあり方やそれに関連して図書館評価の項目や方法について各位委員から自由発言があり、図書館評価担当者の説明があった。特に、昨年からの外部評価結果をどの様に次の施策や評価に生かすのか? 図書館側が設定した評価項目が市民の見る図書館の価値と合っているのか? などの質問があり、それについては今後の過程で見直したいとのことであった。

これを受けて協議会では昨年に外部評価の経験を生かし、全項目を5つに分けて、委員を5グループに編成し、各グループごとに項目検討を行い、

最終評価を出す予定にした。今後、グループ分けを経て、グループごとに検討を行う予定。

Ⅲ 今期図書館協議会のあり方について

委員からの自由発言を募り、以下の7項目を活動目標(案)とした。

- ① 町田市図書館 2010 年度の外部評価(図書館評価の在り方を含む)
- ② 町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」への意見
- ③ 運営理念と目標をいかに展開していくかの討議
- ④ 町田市立図書館と学校図書館の連携への意見
- ⑤ 近隣公共図書館、学校図書館の視察
- ⑥ 生涯学習関係委員会との懇親、意見交換
- ⑦ その他、図書館および協議会の発展に寄与する活動

今回の協議会は9月27日(火)9:30~11:30。中央図書館6階ホールにて行います。公開されておりますので市民の皆さんの幅広い傍聴をお待ちしております。ご希望の方は、上記時間に会場までお越し下さい。なお10時以前は図書館正面玄関が開いておりませんので、エルシー1F正面玄関左側(建物の東側から見ると右手)に図書館職員通用口兼エレベータ利用者入り口があります。守衛に協議会傍聴の旨を申し出て、エレベータで6階まで起こしてください。事前予約は不要です。詳しくは、図書館へお尋ねください。

(文責:山口:協議会委員、会員)



第二次町田市子ども読書活動推進会議 スタート!

2011. 8. 31(水)14:00~16:00 / 於: 中央図書館6Fホール

2010年3月に策定した「第二次町田市読書活動推進計画」第4章「第二次町田市読書活動推進計画の策定」の項目7「計画の進行管理(推進会議の設置)」には、「関連部署・施設等と情報交換を行いながら、子どもの読書活動の推進状況を確認し、必要な助言等を行うため、新たに生涯学習部図書館が所属する町田市子ども読書活動推進会議を設置します。」とある。これに基づき、「第二次町田市子ども読書活動推進会議」が発足、第1回会合が開かれ、初めに委嘱式が行われた。

公立小学校校長会の代表(松本啓吾)・公立中学校校長会の代表(冨田直人)・公立小学校PTA連絡協議会の代表(藤田英子)・公立中学校PTA連合会の代表(木内恵)・私立幼稚園協会代表(古木あけみ)・法人立保育園協会の代表(朝倉寛喜)・図書館または学校図書館に関わるボランティア(増山正子・谷釜房子)・図書館協議会の代表(水越規容子 本日欠席)、行政からは、子ども生活部子育て支援課長(小池晃)・子ども生活部児童青少年課長(平林隆彦)・学校教育部次長兼教育総務課長(小瀬村利男)・学校教育部指導課長(小池慎一郎 本日欠席)・生涯学習部図書館長(尾留川朗)―以上敬称略。

任期は2年、年間3,4回の会合を持ち、計画推進の状況を確認し合いながら、計画に盛り込まれた31の取り組みを毎年報告してもらい計画が目標に達しているかどうか評価し、必要な助言等を行っていくという14名の推進構成メンバーである。

そのあと尾留川館長より、図書館だけでは子どもが本に親しむ機会は限られる、一定の理解を持っている方たちにさまざまな立場で外部的評価をいただきながら、総合的に計画が達成できるようにしていきたいという旨の挨拶があり、委員と担当職員(司会/近藤副館長、渡部担当係長・佐野事務局・神林文学館)の自己紹介が行われ、議事に入り、委員長・副委員長の選出(委員長には増山が、副委員長には朝倉寛喜さんが就任)が行われた。そして、児童担当渡部係長より「読書活動推進計画」の大意についてと2010年度の取り組み状況について説明があり、これを受けて情報交換となったが、計画に予算措置がなされているか、措置がない中でどのように進めるのか、読書活動が家庭や子どもたちに行きわたる方法は? 人の問題抜きでは遂行できない等活発な意見が出され、行政側も真摯に意見を述べ対応、今後行政と市民が忌憚のない意見を出し合い、推し進めることを確認しあった。(増山)

ご協力ありがとうございました!!

1,593,545 筆!

「臨時・非常勤職員の処遇改善・雇用安定に向けた法改正を求める署名」

この活動をきっかけに、たくさんの方々と出会い、つながりを持つことができました。疎遠にな

2月から約5ヶ月間にわたり、一丸となって取り組んできた署名活動。“町田の図書館活動をすすめる会”の皆様をはじめ、本当に多くの方々にご協力いただき、無事6月27日の最終メ切を迎えることができました。お陰様で、町田市としては7,039筆(目標達成率222%)、うち図書館2,353筆、東京都計105,407筆(同100%)、そして全国では1,593,545筆というたくさんの署名を集約することができました。温かいご支援、本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

この署名は、8月8日に公務員連絡会地方公務員部会から、総務大臣宛で提出されました。しかし署名は、提出したから終わり、というわけではありません。今後の動向を見守りつつ、皆様からいただいた思いを胸に、日々の業務に、活動に、前向きに取り組んでいきたいと思っております。

今回の署名の目的を一言で表すと「法整備」ということに尽きると思います。図書館で働く嘱託員のような特別職非常勤職員は、全国で約20万人いると言われていますが、その後ろ盾となる法律は全くありません。臨時・非常勤問題が大きく取り上げられている今しかない、そういった機運の中、全国一斉にこの運動はスタートしました。

町田市では早々に、市職員組合・市役所ユニオン(教育相談所の嘱託員組合)・市民病院ユニオン・図書館嘱託労組で署名実行委員会を立ち上げ、共に活動してきました。それぞれの組合員や友好団体への協力依頼に加え、臨時・非常勤職員の現状を広く知ってもらうための学習会を企画。3月中旬には町田駅周辺での宣伝活動も予定しておりましたが、東日本大震災のため、残念ながら中止となってしまいました。このことによって、署名活動自体も停滞しましたが、被災された地域の方々の分までがんばろうと声をかけ合い、最終的に上記のような大きな結果を残すことができました。正規・非正規の垣根を越え、同じ働く仲間の事として、職員・嘱託員が一緒になって取り組めたことを、私はとても嬉しく思っています。

なっていた友人知人とも久しぶりに連絡を取り合うことができ、そうした中で、自分自身、本当に多くの人たちに支えられているんだなと強く実感しました。この思いを忘れずに、これからも頑張っていこうと気持ちを新たにしている所です。

最後になりましたが、この署名活動にご協力いただきました全ての皆様に、あらためて御礼申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。

(「臨時・非常勤職員 200万人署名町田地区実行委員会」実行委員/自治労町田市図書館嘱託員労働組合副執行委員長 鈴木恵)

「まちだの未来を描く」

—まちだ未来づくりミーティング—

新基本計画市民説明会 8/21(日)13:00~16:00

於:市役所 地下特別会議室

広報での表記呼びかけに増山が申し込み、都合で急遽伊藤・丸岡が出席。申込先着100名とのことであったが、定刻過ぎても次々と出席者があり、椅子を補充する程の盛況であった。

将来の町田を見据え、10年間(2012~2021年度)に、何を目標にどのようにまちづくりを進めていくのかを示す町田市基本計画「(仮称)まちだみらいづくりプラン」の策定に市は取り組んでいるという。

新基本計画案の冊子2冊が配布、説明を受けたあと分科会【①将来を担う人が育つ町をつくる(子育て、教育分野)、②安心して生活できるまちをつくる(保健、福祉、市民生活分野)、③賑わいのある町をつくる(経済、文化、スポーツ分野)、④暮らしやすいまちをつくる(都市基盤、環境分野)】に別れて市民討論会にはいった。

伊藤、丸岡は①に参加したが、この分科会の参加者が一番少なく全員で8人。市役所職員2名が加わって野村総合研究所の妹尾氏が司会をつとめた。市の政策経営部企画政策課の押切氏が、子育て・生涯教育関係の計画案を説明し、目下の市民の満足度の低い現状についての言及があった。

そのあと市民が一人ずつ順に発言。子どもセンターが少ないこと、スクールボートのこと、高齢者無視の施策、保育所の不足、文化施設の不足、子どもの居場所の少ないこと、学校の活性化の必要、身近に図書館のある大事さ、元気な高齢者の活用などが上がった。最後に4つの分科会の報告があり散会となった。9月9日までに意見をあつめ12月に発表するとのことで、伊藤が図書館不毛地帯の解消を願う意見書を出した。(当会会員:丸岡和代)

NPO まちだ語り手の会が 委嘱されました

予め提出した資料を参考で紹介されていた。

文部科学省スポーツ・青少年局青少年課では、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第二次)」を踏まえ、今年度より、「読書コミュニティ拠点形成支援事業」を新たに実施するとして、各都道府県及び指定都市教育委員会・子どもの読書活動推進主管課宛に、地域の読書活動の推進の核となるような団体を委員として推薦して欲しいという旨の通達を出した。

推薦要件としては、例えば、として「学校・図書館等読書活動に関わる団体との連携促進」「地域の読書ボランティア団体の活動への相談・助言」「学校等との連携活動の事例紹介などの情報提供」「読書ボランティアの人材育成 等の活動を行っている団体」の4項目を挙げ、子どもの読書活動の環境整備を図るため、各地域で活躍する読書ボランティア団体に読書コミュニティ拠点形成支援推進会議の委員として協力してもらい、読書活動を通じた地域コミュニティづくりについて検討していきたいというものである。その結果、東京都ではNPO まちだ語り手の会が選ばれたので、その会議に出席するようにと市立図書館より連絡があり、何が何だかよく分からないまま、第1回地域における読書コミュニティ拠点形成支援推進会議(7月28日(木)13:30~16:30/於:国立国会図書館国際子ども図書館3Fホール)に出席した。

そこでの説明で、自治体の推薦を受けた34団体の内16団体(右記)が「地域における読書コミュニティ拠点形成支援会議」の委員として委嘱され任期は委嘱された日から24年3月31日で会議開催は年3回だということ、この会議のバックに「読書コミュニティ拠点形成支援事業協力者会議」が年6回開かれ、そのうちの3回は支援会議メンバーとの合同会議であるということが分かった。

「読書コミュニティ拠点形成支援事業協力者会議」メンバー10名(文科省青少年課長・青少年体験活動推進専門官併参次官補佐・担当職員(司会)他、委員6名、本日の講師である座長)の自己紹介のあと、われわれ「支援会議」メンバーの団体紹介に移った。22年度の活動内容と団体の抱える課題等が、それぞれ

- (岩手県)NPO うれし野こども図書館(盛岡市立図書館・盛岡社会福祉協議会の支援・協力を受け活動)
- (千葉県)市川子どもの本の会
- (東京都)NPO まちだ語り手の会
- (長野県)読書の森 読みむinちの(茅ヶ崎市教育委員会学習企画課内)
- (岐阜県)おはなしネット・ことだま
- (大阪府)視覚障害児のためのわんぱく文庫
- (鳥取県)絵本の会「ほしのぎんか」
- (徳島県)NPO「ふくろうの森」(鳴門図書館内)
- (福岡県)本のたのしさおとどけ便
- (長崎県)時津東小学校図書館ボランティアごほんの会
- (大阪市)おはなしボランティアとことこ
- (栃木県)栃木子どもの本連絡会
- (群馬県)群馬県読み聞かせグループ(群馬県立図書館内)
- (大阪府)大阪府子ども文庫連絡会
欠席 ●(青森県)青森市読書連絡会
●(兵庫県)こうべ子ども文庫連絡会

行政の組織的支援を受けて県単位で幅広く活動している団体や、学校単位、発足して間もない小さな任意団体など、「子どもと本を結ぶ」多様な活動が活発に紹介された。

町田市では「第二次子ども読書活動推進5か年計画」が施行され、それを遂行するために少しでも役に立ちたいという思いで、まちだ語り手の会は、昨年市内全域の公的機関で「子どもの読書環境の向上を図る事業」を実施した。この実態調査が、読書コミュニティづくりに役立つのではと、今回の文科省の支援事業に期待した。しかし、文科省の説明によると、新規事業「読書コミュニティ形成支援事業」は、委嘱された団体が、地域で取り組んでいる先進的事例の情報を得ることで、地域に持ち帰って世に普及して、「行政・公共図書館・学校図書館」といった地域でのネットワークの構築を支援するといった、新しい試みの事業である、とのこと。

限られた予算のため、助成金等は一切ないという。先進的取り組みをしていると思われるところは、自治体が子どもの読書に熱心で側面からかなり支援している場合が多い。町田市でどのような読書コミュニティの拠点を形成することが出来るか。自治体にも頑張ってもらわねばならない。(増山)

—報告— 子どもと自然をつなぐ夏休みの特別企画

皆越ようせい氏(自然写真家)写真上映とおはなし

「うみのダンゴムシ やまのダンゴムシ」

2011年7月24日 13:30~16:00

於:町田市立中央図書館 6F ホール

「町田の図書館活動をすすめる会」と、同会に団体登録をしている「野津田・雑木林の会」で企画・開催する夏休み特別企画は、今年8回目を迎えました。

今年の講師は、前年と同じ皆越ようせいさん。昨年紹介し関心の高かった写真絵本『うみのダンゴムシやまのダンゴムシ』(岩崎書店)をテーマに、ダンゴムシの世界を美しい写真を上映しながら語っていただきました。

中央図書館・児童担当と協力して回を重ねてきて夏休み恒例になっている企画ですが、開催の1ヶ月前には、4F児童フロアの入口壁面に、皆越さんが提供してくださったダンゴムシの写真パネル10枚程が児童担当の方々の手で美しく楽しくディスプレイされ、催しがアピールされました。

それにしても、ダンゴムシは子どもたちの人気者ですね。当日は、開催時間前から親子連れが受け付けへー。幼児～小学生がたくさん集り、約

70名の参加者でした。

「ダンゴムシはどんな生きものかな?」という皆越さんの呼びかけで始まったこの日は・・・“知られざる世界”が、続々紹介されました。ムシ大好きで集まった子どもたちの情報・知識は、新鮮に揺すぶられた様子。目を輝かせて映像に見入り、聞き入っていました。そして、皆越さんは最後に「まだ、わからないことがいっぱいです。皆さん、身近でダンゴムシを調べてください」と。

そして、「ダンゴムシ」の後には「ハサミムシ」「ミミズ」の写真上映とおはなしも。

生態から、人の生活史へもつながる皆越ワールドの深さと広がり、大人にとっても“目からウロコ”の新鮮で興味深いものでした。

(久保礼子/会員)



休憩時間に、集まってきた子どもたちも自分で育てたダンゴムシを手に「ダンゴムシの寿命まだわからない」と語る皆越さん

「他市交流会」に参加しました!

〈八王子に学校図書館を育てる会主催〉

於:7月2日(土)八王子市生涯学習センター

今回の交流会は主にデータベース化のを中心に情報交換しました。

八王子市では、昨年教育センター内に学校図書館サポートセンターが設立され、今年度から国の緊急雇用補助金を使って市内108校のデータベース化に取り組むことになりました。ただし、今年度はバーコード添付とデータ入力までで、そこから先は予算がないことから見通しは立っていないとのことでした。

川崎市では、小中学校ともにデータベース化されていて、特に小学校では図書の貸し借りの他、検索や蔵書管理にも利用されています。ただしそれを使うのは保護者のボランティアか先生で、以前は学校の都合に合わせて来てもらっていた学校図書館コーディネーターも市の予算の都合で思うように来てもらえず、結局せっかくあるシステムも活かすことができない状況だそうです。

町田市では、3年前に情報ボックス(教育システム社)の導入が決まったものの、費用面は学校任せ。当然学校間格差が出ていること、特に中学校は遅れていることなどをお話しました。

3市共通の悩みはやはり予算の無さ。その他、いまだに学校図書館の重要性に気づかない教育関係者とボランティアで良しとする教育委員会や学校、そしてボランティア自身の問題も挙がりました。

川崎、町田以外のグループにも参加を呼び掛けていたそうなのですが、どこも活動メンバーが限られて、活動そのものが先細り傾向なのだそうです。とても残念に思いました。(報告 伴)

石井桃子さんの「かつら文庫」を 見学して 伊藤倭子

お盆休みを利用して8月17(水)、かえて文庫のメンバー9名で念願の「かつら文庫」を訪問しました。32年前、私たちは文庫を開室するにあたり先ず読んだ本が1965年に出版された石井桃子著『子どもの図書館』(岩波新書)でした。石井さんは、1958年に荻窪の自宅に「かつら文庫」を開き、7年間の文庫の記録を『子どもの図書館』まとめられました。この本から文庫とは何か?どのように開室して行くのか?を学び、沢山の子どもの本を知ることができました。その頃から、一度かつら文庫を訪ね、子どもになって体験したいものだと思っていました。

『子どもの図書館』の中では、静かな住宅街にたえずむなげない昭和の雰囲気のお家が紹介されており、小さな木戸を開けて入っていくと「いらっやい」とやさしい声かしてお姉さんが迎えてくれ、お友達も顔を出す。部屋の中には沢山の本!そんな本のお家がそばにあったら子どもたちはどんなに幸せなことだろう、と思ったものでした。そして、「かつら文庫」は文庫に関わる者にとってお母さんの存在であり、すばらしい教本でした。

当日、荻窪駅から10分程でたどり着くと何年か前に建替えられたというお家は近代的な建物で、「かつら文庫」という看板がはっきり出ていました。東京子ども図書館の3人の方が出迎えて、案内してくださいました。石井桃子さんは2008年4月、101歳で亡くなるまで、このお家で執筆活動をされ、多くのすばらしいお仕事をされたのかと思うと感無量でした。

玄関フロアと続きの明るい部屋には厳選された絵本、児童書がきちんと並べられて真ん中にはテーブルと椅子があり、すぐ本を手に取り落ちて読んで読める雰囲気です。その奥にはおはなしの部屋があり、土曜日の3時から「おはなし会」があるそうです。2階は石井さんの書斎・リビングルームなどプライベートな部分で、沢山の著書、愛用の机にはペン・メモ帳などそのままあり、そばには今整理中の書類が床に並べられていました。“地域の子どもたちが近くでつろいで、自由に本が読めるように”と開かれた小さな図書館は石井桃子さん亡きあとも「東京子ども図書館」がその運営を引き継ぎ、毎週土曜日に開室して本の貸出しや、読み聞かせ、おはなし会、お母さんへの「子どもの読書相談」をされているそうです。今年3月から、毎月第3水曜日は予約制で公開され、私たちが早速申込み見学

が叶ったのです。「小さな図書館」ですから、本は多くはありませんが子どもたちが楽しみ、何度もくり返し読みたいと思える本が並べられていました。

「本当に本を読みたい子が、本を読むために来る所だからよけいな物は置いていません。どの本をとってもおもしろい、という本選びをしている」とのこと。子どもの心の成長と共に本も並び変えているのかと、ここで育つ子どもたちはなんて幸せなのかと思いました。自分達の関わる地域文庫と、家庭文庫とは少し違いはあるけれど、“どの子にも読書のよろこびを、良い本への誘いを”という思いを再認識して、石井桃子さんの子どもに対する温かい思いを強く感じながら「かつら文庫」をあとにした嬉しい一日でした。

(会員/かえて文庫世話人代表)

☆有山崧生誕100周年記念集会

2011年11月28日(月) 13:00~

実践女子大学香雪記念館(日野駅・歩15分)

・基調講演「有山崧から何を学び、何を生かすか」/前川恒雄氏(日野市立図書館初代館長)

・パネルディスカッション

「有山崧の視点から、いま図書館を問う」

有山至氏(有山崧氏次男)

松岡要氏(日本図書館協会事務局長)

山口源治郎氏(東京学芸大学教授)

渡辺生子氏(日野市立日野図書館分館長)

森下芳則氏(田原市図書館前館長)

有山崧氏(元日本図書館協会事務局長・日野市長、1911-1969)は、戦後日本の公共図書館観の転換と公共図書館の発展に、非常に重要な役割を果たしました。『中小都市における公共図書館の運営』(1963)の作成や日野市立図書館での実践などを通して、有山氏が目指したものは、「民衆とともにある図書館」であり「精神や教養の社会保障機関としての図書館」でした。豊かな内容をもつ有山氏の図書館思想は、混迷と困難の中にある今日の図書館に、多くの示唆を与えてくれます。私たちはいま、有山氏生誕100年にあたり記念集会を開き、その功績を顕彰するとともに、深くその思想に学び、これからの図書館の進むべき確かな方向を探ろうと思います。

資料代500円/申込み不要

有山崧生誕100周年記念集会実行委員会

代表 実践女子短期大学教授 松尾昇治

問合せ先: 有山たかし生誕100周年記念集会

実行委員会・松尾(Tel.042-584-5469)

E-mail: santoken_at_mail.hinocatv.ne.jp



ひろば

例会報告 7/20(水)18:00-20:20
会報159号印刷(16:00~)
伊藤、丸岡、増山

出席者: 石井、伊藤、久保、玉目、津田
手嶋、増山、丸岡、水越、桃沢、山口、山本

〈直営という言葉の重み〉

● 図書館協議会が館長の諮問「図書館の理念と目標について」に応えての答申は、「直営」という言葉が一切はいつてなかった。協議会は直営が当たり前のことと考えて出した内容だが、現社会状況を鑑みると、「直営でやる」という一言の重みは計り知れない/（「民と官が競う図書館」朝日新聞記事(7/9)配布）

図書館は市民のものです！

図書館を利用されている方、
図書館ボランティアをされている方、
図書館に一度も足を運んだことのない方、
市民の図書館とは？
全国の市民が集う第18分科会へ
ご参加ください！

第97回 全国図書館大会 (1P参照)

2011年10月13日(木)・14日(金)

多摩から生まれ実践された『市民の図書館』(日本図書館協会)刊行 40年の意義ある年として、調布を中心とした多摩地域において行われる。

14日は、第18分科会「図書館を支える市民のカーン図書館協議会・友の会・市民運動」が、多摩市の永山公民館で行われる。

市民が主体の分科会は本大会初。分科会実行委員として、すすめる会が中心になって、玉目・山口・守谷・手嶋・広井(多摩文庫連)・友友連・増山が動いている

基調講演には、地方自治論・行政学・都市政策・文化政策等が専門の中川幾郎さん(帝塚山大学法学部教授)、多摩の図書館協議会報告は町田の図書館協議会委員長でもある松尾昇治さん、そして静岡友の会から草谷桂子さん、図書館友の会全国連絡会の代表福富洋一郎さんがそれぞれ報告、それを受けて会場の皆さんと意見交換をすることになっている。これを機に、図書館に関心を寄せる市民が増えることを願っている。今から、皆さんのスケジュールに加え、周りの人にもお声をかけてご参加下さい！

* 前号お詫びと訂正:新会員紹介/どうぞよろしく!の田中真貴さんは、中央図書館職員です

2011年度 第7回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

10月20日(木)10:30~11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算51回)

町田ゆかりの作家「井上友一郎」竹本すみ子

マリアの子(グリム) 遠藤文子

こしかけ田(町田の民話) 佐々木令子

伊勢屋の黒助(池波正太郎作) 佐藤香織

直接会場へどうぞ! 無料 保育有

(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

● 図書館の直営、民営について話し合う

直営でない...行政とのつながりが弱くなり、行政資料、地域資料が集まりにくくなる・継続性の保障が無い・民営化が図書館の有料化につながったりする恐れがある。NPOでも問題がある。人は育たず、ノウハウも生かされず、サービスは低下する・民営化されると、こういうことができないということを具体的に挙げて考えていくことが必要であり、経費削減の一面だけで考えていくのは間違っている

直営であっても...直営だからといって、良いサービスばかりではない。直営にあぐらをかかず、もっとサービスの向上を考えるべきである・一般市民は直営か民営か知らない。全国的にみれば直営でもひどい図書館がある。働かない人を図書館に送りこむ行政役職にも問題ある・経験のあるプロがどのように運営していくかということが、サービスの向上に繋がる

市民運動...民営化への大きな歯止めとなっている。市民の力が大切である・市民は直営で図書館からこのように享受されているということをもっとアピールする必要がある・図書館の未来は、多くの市民が関心を寄せることで開かれる。市民の代表として意見を述べる公的機関である図書館協議会の役割は重い。図書館大会(1P参照)などで他自治体の動きを学ぼう、等々、活発な意見交換がなされ、雑談のような例会となりました。

◎8月17日例会日、は「くいものや熊」にて夕涼み会を行い、15名が参加。職員も身分の差なく皆さん市民になって言いたい放題、暑さをふっとばしました。会報はお休みました。

◇会としても、協議会で討議されている事項に関心を示し、協議会の一つのバックグラウンドとしてどんどん意見を述べていくことの必要性を感じました。代表が、例会時の討議事項を決めるのではなく、会員がもっと主体的に問題意識を持って関わられるような運営を心がけなければなりませんね。(M*)